

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

成果を上げるための四つの習慣 (P. F. ドラッカー)

1. 知識があつて、理解力があり、懸命に働くだけでは十分ではない。成果を上げるためには、これらと違う何かが必要である。仕事において成果を上げるには、特別の才能や適性は必要ない。いくつかの簡単なことを行うだけでよい。そして、簡単な習慣を身につければよい。
2. 第一が、常に貢献を考えることである。これは簡単なことのように思えて、じつはそうではない。「業績」という言葉が出てきそうになったら、そのつど「貢献」と言い換えることである。第二が、常に集中することである。これも簡単なことに思えるが、そうではない、集中するには優先順位を決めなければならない。
3. 第三は、目線を高くすることである。何をどうしようとも、「世のため人のため」という目線の高さがなければ飛躍は無理である。必ず、欲という落とし穴に落ち込む。そして、もう一つ、成果を上げるための必須の資質は「真摯たること」である。これをなくして、長期的な成果を望むことは不可能である。成果を上げる者は、成果を上げる能力を努力して身につけている。彼らは、成果を上げることを習慣にしている。成果を上げるよう努力する者は、皆が皆、成果を上げられるようになっている。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2007年10月27日号)

ワンポイント経営アドバイス

つぶれないロマンある会社

1. ドウシシャ(東証1部、日用雑貨・衣料卸、年商820億2600万円、経常利益率6.5%)の創業は1974年。以前勤めていた会社の倒産に伴い、個人で始めた日用雑貨の卸が発祥だ。野村正治社長が創業時に誓ったのが、会社はつぶさないこと。「債権者から罵声を浴び、150人の社員も路頭に迷った。格差社会が問題になっているが、倒産で、社員は格差以上の悲劇を味わう」。
2. 「つぶれないロマンのある会社」の信念と、扱う商品群には大きな関連がある。ドウシシャが狙うのは、50億円でシェアトップになれる商品群。これ以上の規模になると大企業の参入が増え、体力勝負になるからだという。大企業がうまみを感じない、むしろリスクが目立つ分野に独自の視点で参入し、市場を押しえていく。

(参考:「日経ビジネス」:2007年11月5日号)

人事・労務について

失業の不安を抱える勤労者

1. 厚生労働省「毎月勤労統計調査」からは、2007年の夏以降増勢が鈍ったとはいえ、所定外労働時間がここ数年増加を続けてきたことがわかる。2007年10月に実施した「勤労者の仕事と暮らしについてのアンケート調査」でも、残業を含めた平均的な労働時間が週40時間を超えている人は62%に上り、ほぼ3人に2人は法定労働時間以上働いていることになる。さらに、週50時間以上働いている人も26.2%と、4人に1人が該当する状況だ。
2. また、仕事量に比べて働く人の数が不足していると見る人が6割以上いる状況で、仕事や職場でのストレスが1年前に比べて「増えた」と感じている人が「減った」とする人の5倍に上る。また、「今後1年くらいの間に失業する」という不安を抱えている人の割合が2004年以降20%前後で下げ止まっているなど、労働強度の軽減や雇用不安の解消の面でも勤労者に改善・向上の実感乏しいのが実状だ。

(参考:「週刊東洋経済」2007年12月1日号)

古典に学ぶ

仕事のやり方

「寛事を処するには捷しょうき倣を要す。然らずんばけいかに失せん。急事を処するには徐じよき倣を要す。然らずんばそうきよに失せん」

(訳) ゆっくりしてよい事は早くしてしまうほうがよい。そうでないと滞って遅れる。急ぎのことはゆっくりやるがよい。急ぎあわてると失敗することになる。(参考:佐藤一斎「言志四録」:PHP文庫)